

2022年度 降下ばいじん調査結果

1. 測定方法

神戸市では1958年よりデポジットゲージ法で降下ばいじんを測定している。

デポジットゲージは屋外に固定し、雨水やその他の大気からの降下物を受ける装置であり、ロート部分と採取容器から構成される。ロートの口径は工場及び都市における環境調査に統一的使用するため、 $300 \pm 5\text{mm}$ に規定されている。採取容器に溜まった雨水を蒸留分離することにより、降下物質の重量を測定する。

2. 測定結果

2022年度は、灘浜、淡河の2地点において測定を行った（図1参照）。

市街地（灘浜）の降下ばいじん総量の年平均値は $1.56 \text{ ton/km}^2/30 \text{ 日}$ であった。

また、郊外（淡河）における年平均値は $0.91 \text{ ton/km}^2/30 \text{ 日}$ であった。

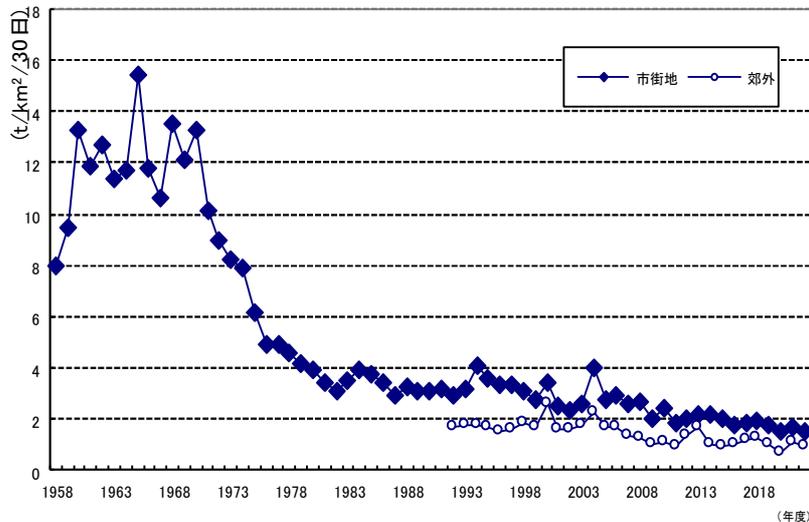
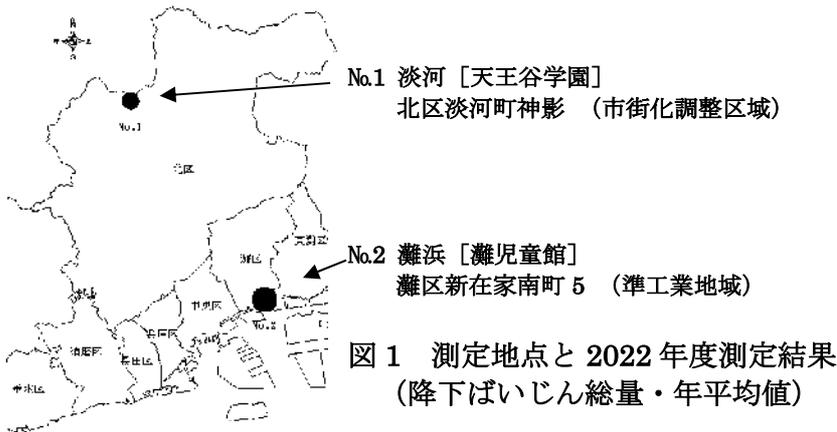


図2 降下ばいじん総量の経年変化

注) 継続測定地点

1958～1967年度	:3地点(東灘・中央・長田)
1968～1985年度	:4地点(東灘・灘・中央・長田)
1986～1991年度	:5地点(東灘・灘・中央・港島・長田)
1992～1994年度	:3地点(東灘・長田・淡河)
1995～1999年度	:4地点(東灘・長田・淡河・市役所)
2000～2003年度	:3地点(東灘・長田・淡河)
2004年度～	:2地点(灘浜・淡河)

表1 降下ばいじん総量の経年変化

地域	No.	測定点	年平均値 (ton/km ² /30日)					
			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
郊外	1	淡河	1.17	1.32	1.04	0.69	1.08	0.91
市街地	2	灘浜	1.90	1.96	1.81	1.50	1.70	1.56

※2022年度(隔月6か月値)

5月、7月、9月、11月、1月、3月平均